

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2023年8月20日

1. ロングコロナ率：2022年6月から一年後の変化：アメリカ
2. 札幌下水サーベイランス：高止まりでお盆に突入

【松崎雑感】

命をおびやかすレベルの感染はとても少なくなっていますが、アメリカの追跡調査では、日常生活に支障をきたすような体調不良をもたらすロングコロナは、感染した人々の2割前後で、感染から1年以上経っても、続くようです。コロナ感染後、ロングコロナとなった人々に対する何らかの社会保障的対策が必要と考えます。しかも、現在も過去最大の感染ピークに近い人々が新型コロナに感染しており、10人に1人以上は、社会的救済の必要なロングコロナとなっていると考えられます。

ロングコロナ率：2022年6月から一年後の変化：アメリカ

Ford ND, et al. Long COVID and Significant Activity Limitation Among Adults, by Age - United States, June 1-13, 2022, to June 7-19, 2023. *MMWR Morb Mortal Wkly Rep.* 2023;72(32):866-870. Published 2023 Aug 11. doi:10.15585/mmwr.mm7232a3

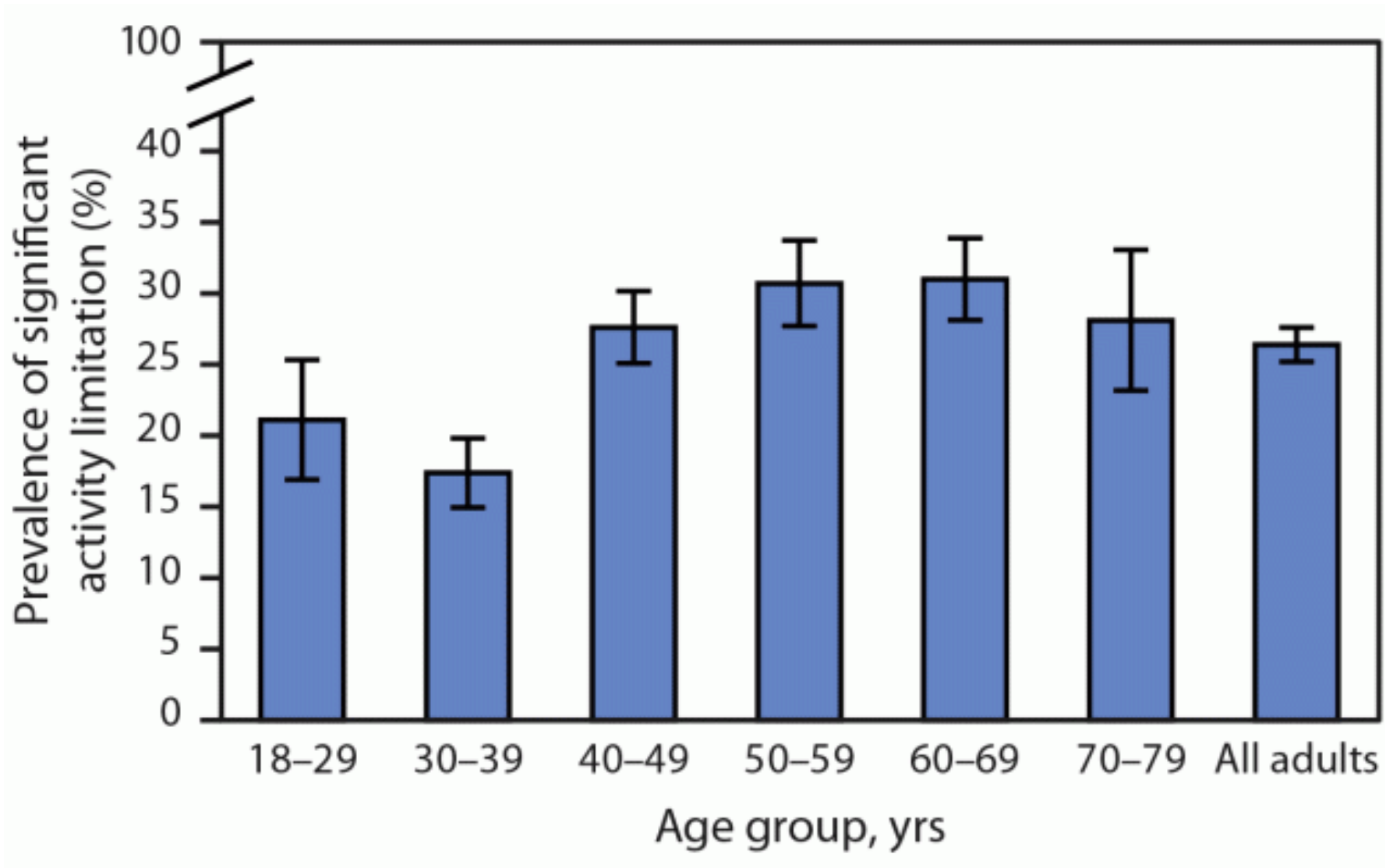
アメリカの18歳以上を対象とした4か月ごとのロングコロナ症状断面調査。ロングコロナの診断は、コロナ感染前と比較して、日常の社会生活（労働、家庭など）を送ることができない状態と定義した。

2022年から23年の1年間の結果を解析。

結果：新型コロナ感染の既往の有無にかかわらず、全アメリカ市民のロングコロナ率は7.5%から6.0%に低下（有意）。新型コロナ感染歴ありと申告した人々におけるロングコロナ率は、18.9%から11.0%に低下（有意）。60才未満の階層で有意にロングコロナ率が低下。

2023年6月の時点で、ロングコロナ感染歴ありと申告した人々の26.4%が、引き続き明らかな社会生活上の障害ありと回答しており、低下トレンドは頭打ちとなっている。これらの知見を基に、ロングコロナの防止と治療ケア対策を進める必要がある。

新型コロナウイルス感染ありと自己申告した人々の、2023年6月時点の、著明な日常生活支障は、高齢者に多いが、若年層でも2割前後である



下水サーベイランス／札幌市 (city.sapporo.jp)

高止まりでお盆に突入

下水サーベイランスの結果（新型コロナウイルス）

